

パーフェクト・ストレンジャー

2007(平成19)年8月22日鑑賞<角川映画試写室>

★★★★



監督=ジェームズ・フォーリー/出演=ハル・ベリー/ブルース・ウィリス/ジョヴァンニ・リビシ/ゲイリー・ドゥーダン/ポーラ・ミランダ/ダニエラ・ヴァン・グラス/ニック・エイコックス (ウォルト ディズニー スタジオ モーション ピクチャーズ ジャパン配給/2007年アメリカ映画/110分)

……1人の女性の変死体をめぐって展開される犯人捜しのサスペンス劇は、スピーディーでスリリング！ また、ハル・ベリーがみせる八面六臂の活躍は魅力いっぱい、初共演のブルース・ウィリスが正直な中年男に見えるほど……？ 現代の犯罪にはパソコンが不可欠だが、ネットやチャット上の情報の真実性は……？ またパソコンによって、人間の秘密にどこまで迫れるの……？ 「完全な他人(別人)」というタイトルの意味をかみしめながら、ラスト7分11秒の衝撃の真実を、しっかりとあなたの目で……。

最初はカッコいい新聞記者から……

この映画はハル・ベリーとブルース・ウィリスの初共演が1つの売りだが、そのウエイトは4:1くらいで圧倒的にハル・ベリーが上。すなわち、ブルース・ウィリスは刺身のつま程度の共演で、ほとんどハル・ベリーの単独主演映画という感じ。

そのハル・ベリーが、この映画では1人で何人もの女の名前を騙って七変化(?)していき、その最初は敏腕記者のロウイーナ。彼女の独占取材によって手に入れた特ダネは、上院議員のスキャンダル。違法スレスレの突撃取材で、「何が望みだ。望みのものは何でも……」というナマの声まで録音したロウイーナは、これで特ダネ賞は確実と、同僚のマイルズ(ジョヴァンニ・リビシ)とともに祝杯を。

ところが、政治ネタの取材の場合よくあるのが、「上からの圧力」というやつ。誰のどんな差し金か全く説明されないまま、明日の朝刊のトップ記事は突然ボツと言われることに。これにはロウイーナは怒り心頭で、「ボツにするのも命令なら、休暇も

命令だ」と言われたことに対しては、飲んだ勢いも多少手伝って(?)「休暇なんかいらぬ。こんな会社辞めてやる!」という最悪の事態に……。

ホントは映画の後半、彼女の復帰を求める上司が言うように、1つの取材がボツにされたくらいでいちいち「辞めるワ」と言っていたのでは、身体がいくつあっても足りないはずだが……。

ストーリーの発端は、グレースの変死体から

ストーリーの発端は、ロウィーナの幼なじみのグレース(ニッキー・エイコックス)の変死体の発見から。新聞社を辞めた数日後、グレースの母親からニューヨークの郊外で発見された変死体が、行方不明になっていた娘グレースらしいとの連絡を受けたロウィーナが、急いで安置所に駆けつけてみると……。そこにあった、かなりひどい状態の変死体は、まぎれもなくグレースのものだった。

一体なぜ……? だってロウィーナは、新聞社を辞めて自宅に帰る途中、地下鉄の構内でグレースから声をかけられて話をしたのに……。ひょっとして、あの時彼女が話していた、大手広告代理店ハリソン・ヒル社の社長であるハリソン・ヒル(ブルース・ウィリス)との不倫と破局、そしてハリソンに対して一生つきまとしてやると宣言していたことと何か関係が……。もしそうだとしたら、グレースの死亡はハリソンの手によるものかも……。しかし、そうだとした場合、グレースはなぜあんなむごい状態に……?

そこから始まったのが、やはり敏腕新聞記者特有の血を抑えられないロウィーナの突進。もっとも、なぜロウィーナがそこまで必死になってグレースの事件を調べようと思ったのかは不明で、ただグレースの無念をはらすためだけ……?

最近よくあるキャラがマイルズ……

最近の犯罪はパソコンやネットを使ったものが多いから、最近では警察官や探偵そして新聞記者にも、コンピューターおたくやハッカーの天才というキャラがよく登場する。もっとも、このキャラは男と相場が決まっており、女の天才ハッカーはまだ見たことがないが……。

そんなコンピューターの天才が、同僚だったマイルズ。そこで、ロウィーナはマイルズの力を借りてハリソンのパソコンに入り込み、まずはグレースとハリソンの間で

交わされた大量のメールを発見。次に、ロウィーナはキャサリン・ポグと名前を変えて、派遣社員としてハリソン・ヒル社に入り込むことに成功。どんな会社でも、情報通でおしゃべり好きな女がいるもの。キャサリンはそんな女性社員から流される情報と、直接ハリソンと交わすようになったチャットによって、表に見える成功者の顔に隠されたハリソンの裏の顔に徐々に迫っていくことに……。

ハリソンも、実はよくあるキャラ……？

8月21日に観た『ヘアスプレー』(07年)で、あの芸達者なジョン・トラヴォルタが女装のうえ巨大なビア樽みたいな姿で登場した時には驚いたが、ブルース・ウィリスだって彼に負けず劣らずの芸達者で、決してアクションオンリーの俳優ではない。

この映画で彼が演ずるハリソンのキャラは、いわゆる大企業のムコ養子。つまり、ハリソン・ヒル社の事実上のオーナーは、美しいが異常に嫉妬深い妻ミア(ポーラ・ミランダ)の父親だから、離婚されたら今のハリソンの地位はパー。もっとも、彼は世間によくあるバカ社長ではなく、仕事はよくできそうな切れ者だが……。

しかし、そんな恐妻型の亭主に限って浮気したがるもの(?)で、情報通の女性社員は、彼が女好きで浮気話が絶えず、過去何人も愛人がいたことをよく知っていた。したがって、そんな情報は妻のミアも先刻ご承知のはずだから、彼女のテーマは亭主にこれ以上浮気をさせないこと……？ そのため、ミアは最近「歩く記憶装置」と呼ばれるサイボーグのように忠実な大女ジョージィ(ダニエラ・ヴァン・グラス)を、ハリソンの秘書としてつけていたが、さてハリソンはそんな秘書の実態を知っているのやら……？

それはともかく、こんなブルース・ウィリス演ずるハリソンのキャラは、実は世間によくあるキャラ。したがって、過去の浮気相手の1人からストーカー的に絡まれることくらいは、本来うまく処理しなければならないはず。だって、そんなトラブルでいちいち殺していたら、一体何人の女を殺さなければならないの……？

ハンドルネームも最近よく映画に……

C級いやD級アイドル如月ミキの死亡をめぐる、5人の男たちがくり広げる怒濤の推理劇を描いた『キサラギ』(07年)はメチャ面白い映画だったが、その映画の中で、それまで顔も知らない男同士が互いに知っていたのはハンドルネームのみ。つま

り、ネット上、チャット上でそれぞれが好きにつけた呼び名だ。

この映画では、グレースのメールアドレスによく登場するハンドルネームがアデックス。したがって、これがハリソンのものだというを発見したマイルズは手柄。次にハリソンとチャットで会話する際に、キャサリンが使うハンドルネームがヴェロニカ。さらにハリソンとヴェロニカとの間の妖しげなチャット上の会話に、時々入り込んでくるのがコンピューターの天才マイルズだから、全然パソコン操作に詳しくない私のようなアナログ人間は、ストーリー展開についていっただけで大変。

それにしても、チャットでの会話を見ていると、英語がいかに便利な言語であるか、逆に日本語がいかに使いにくい言語であるかを痛感……？

キャサリンとハリソンの行き着くところは……？

ハル・ベリーとブルース・ウィリスの初共演として興味津々なところは、色仕掛けでハリソンに近づこうとするキャサリンとちょっと目についた美人派遣社員を大人の魅力でモノにしようとするハリソンとの不倫ゲームのサマ。もちろん、これは一種のゲームだから、騙し合いは大前提のこと……？

しかし、一介の派遣社員が、警戒の厳重な社長のパソコンの前に座ってそれを操作している姿を発見されたら、それで万事休す。と普通は思うののだが、それをさらにウソで塗り固めてハリソンを納得させたロウイーナの話術は大したもの。

ここまで口達者な女を信用するとロクなことはないというのが、古今東西、昔からの法則だが……？

後半、突然キャメロンが登場！

この映画は、マイルズとケンカしたりその協力を得たりしながら、ロウイーナが懸命に犯人捜しを進めていく姿をスピーディーな展開で追っていくから、結構スリリングで面白い。しかし、この先一体どんな展開になるのかが、サッパリわからないようにしているところがミソ……。

そんな中、後半に入って突然登場するのが、ロウイーナの恋人のキャメロン（ゲイリー・ドゥーダン）。それまで全くアナウンスされていなかったキャメロンが、後半に至って突然ロウイーナの部屋を訪れ、熱い抱擁とキスを交わしているシーンを見ると、「なぜ、今頃……」と思ってしまうのは当然。しかも、そこにマイルズからの電

話が入り、2人の熱い雰囲気を感じたマイルズが何か重大な情報をロウィーナに伝えると、ロウィーナは突然キヤメロンに対して怒りはじめたからビックリ……？

こりゃ一体ナニ……？ あまりに展開が早すぎてなかなかついていけないのは、ひょっとして私だけ……？

この映画のテーマは……？

ここまでいろいろなことを書いてきたが、それはこの映画の表面ヅラに現れる現象をなぞっているだけで、この映画が一体何を表現したいのかは、じっくりあなたの頭で考えてもらいたいもの。プレスシートにも、「映画をご覧になった皆様へ：結末は決して誰にも言わないで下さい」と厳重に注意されているから、この映画のクライマックスやアツと驚くラスト7分11秒の展開を書くことができないのは当然。

しかし、この映画のテーマが「秘密」だということは説明してもいいはず。そう、人は誰でも、つまりあなたにも人に知られたくない秘密があるのは当然。殺されたグレースにはどんな秘密が……？ そして、ハリソンにはどんな秘密が……？ さらに、一見ロウィーナの補助役に徹しているように見えるマイルズや、ロウィーナの恋人キヤメロンだって、その本人に注目してみれば、あんなこんな秘密があるはず……？ すると、この映画で八面六臂の活躍をするロウィーナだって秘密が……？

昔は人の秘密に入り込むには、8月17日に観た『クローズド・ノート』(07年)のように、本人が書いた日記帳を覗くことくらいしか方法がなかったが、誰でもメールやチャットを交わしている現在、そのパソコンに入り込めばその人の秘密にたどり着くことができるのは当然。ちなみに、あのライブドアの堀江貴文や宮内亮治の逮捕・起訴についても、メールを中心とする膨大なパソコン情報が決め手になったことは記憶に新しいところ。

グレースの変死体の惨状は、目に入れられたベラドンナという毒が原因らしいが、その毒は少し知識のある人間なら容易に入手できるものらしい。一体誰が、そんな毒を入手しグレースの目の中に……？ 映画の後半、次々と暴かれていく、あんなこんな秘密をタツプリと楽しみたいものだ。

網膜のシーンはきわめて印象的！

映画の冒頭、字幕とともに流れてくるのが、人間の目の網膜を撮影した写真。そし

て、この網膜の写真は、マイルズがハリソン・ヒル社に乗りこんでいった時も、「ビジュアルトラベルへようこそ」というシーンで再び登場し、強調される。

昨年、今年と視力が落ちてきていることに少し悩んでいた私が、眼科に通って検査した時に、撮影し、見せてもらったのがこの網膜の写真。今日スクリーン上でみた網膜に見られる血管はきれいなもので、全く異常がなかったが、血圧が高い私はその血管が少し細くなっていたり、クロスしているため、もしこれが切れたら出血して大変なことになるもの。したがって、血圧をコントロールすることが大切だと注意されている……。

それはともかく、人間の網膜は見えるものをそのまま映すものだから、ウソも秘密もありえないが、パソコンを通して見えるものは、一体どこまでが真実……？

今年2度目の「ストレンジャー」ものを……？

「ストレンジャー」(stranger)には2つの意味がある。その第1は訪問者で、第2は見知らぬ人であることは、8月11日に観た『ストレンジャー・コール』(06年)の評論で書いたとおりだ。しかして、「ストレンジャー・コール」とは「見知らぬ人からの電話」という意味だったが、この「パーフェクト・ストレンジャー」とは……？それは直訳すれば「完全な他人」「完全な別人」ということ。

前述したように、この映画は進行がスピーディーでついていくのが少ししんどいものの、それぞれの人物像は明確に設定されているうえ、1つ1つのストーリー展開は十分理解し納得できるもの。また、とりたてて隠された登場人物もいないから、一体誰が完全な他人、別人なのかが全く予想がつかないはず。

すると、そもそもそんなタイトルをつけたことが大まちがい……？ もっとも、プレスシートにある「はたして犯人は誰なのだろうか？ ラスト7分11秒、誰も信じられなくなった観客の前に、想像を遥かに超える《衝撃の真実》が明かされる——」という何とも思わせぶりな書き方を見ると、観客にそのように思わせることが、この映画の狙いかも……？ さあ、私にとっては今年2度目、あなたにとっては多分今年初の「ストレンジャー」ものを、タップリと楽しもう……。

2007(平成19)年8月22日記